

様式第6号(第18条関係)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和7年5月20日

宮崎市長 清 山 知 憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大塚台西2丁目18番地1
名 称	大塚台地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名	会 長 湯 浅 和 憲
電 話 番 号	0985-47-2010

令和6年3月29日付けで交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第18条第1項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

- (イ) 事業実施報告書
- (ロ) 収支決算書
- (ハ) 事業別収支計算書
- (ニ) 積立金管理状況報告書
- (ホ) その他

(様式第5号)

令和6年度 事業実施報告・収支決算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

1 総括

本年度の事業計画では、7部会から11事業の計画が行われました。各部会とも計画された事業がスムーズにすすめられました。当委員会の最大行事である大塚台総合秋祭りは、開催3回目になり、ステージ内容も小学校の子ども達で結成されたバンドや中学校の吹奏楽部、保育園、高校のダンス部の披露など大変盛り上がりしました。また、いろいろな事業で、中高生のボランティアを募集し、活躍していただきました。

2 収支決算

(1) 収入の部

(単位：円)

項目	予算	決算	差	備考
地域コミュニティ活動交付金	2,061,000	2,061,000	0	
繰越金	1,053,012	1,053,012	0	
雑収入(預金利息)	300	797	497	
雑収入(スポーツ健康増進事業に関する参加料収入)	10,000	4,900	▲ 5,100	
雑収入(大塚台総合あきまつり事業寄付金・売上等収入)	10,000	34,450	24,450	
合計	3,134,312	3,154,159	19,847	

(2) 支出の部

(単位：円)

分野	事業名	実施年数	予算	決算	差	備考
防	地域安全見守りパトロール応援事業	16年目	127,000	95,534	▲ 31,466	
防	自主防災事業	16年目	42,000	5,892	▲ 36,108	
防	災害時医療支援ボランティア活動事業	7年目	61,000	57,728	▲ 3,272	
福	ふれあい活動事業	16年目	80,000	54,069	▲ 25,931	
福	子育て支援事業	12年目	90,000	85,183	▲ 4,817	
福	ボランティア事業	11年目	90,000	21,966	▲ 68,034	
環	里山創造活動事業	16年目	177,500	131,330	▲ 46,170	
環	環境美化活動事業	16年目	70,000	63,514	▲ 6,486	
健	ソフトバドミントン交流事業	2年目	27,800	12,837	▲ 14,963	
健	ウォーキング事業	16年目	111,000	56,472	▲ 54,528	
健	大塚台高齢者支援事業	4年目	345,000	342,790	▲ 2,210	
教	少年が大志を抱く事業 ～未来の大塚台を担うリーダー育成～	6年目	170,000	99,339	▲ 70,661	
他	リーダー育成事業	16年目	72,000	5,407	▲ 66,593	
他	大塚台総合秋祭り事業	5年目	380,000	346,723	▲ 33,277	
他	まちづくり事業活動支援事業	13年目	1,291,012	871,630	▲ 419,382	
繰越金			0	903,745	903,745	
合計			3,134,312	3,154,159	19,847	

3 実施報告

[1] 防犯・防災に係る事業

事業名	地域安全見守りパトロール応援事業	実施年数	16年目															
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度															
地域魅力発信プランとの関連	1. 安心・安全で災害に強いまち ◎地域の見守りに取り組みましょう 2. きずなが深い互助・共助のまち ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動を進めましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎子どもは地域の宝。学校との交流を進めましょう																	
目的 (期待される効果)	○自治会等、地域団体の防犯活動を応援する。 ○見守りやパトロール活動に参加する事で、地域の連帯の輪を広げ、安全・安心な地域づくりにつなげる。 ○安心・安全に対する関心を高め、犯罪や事故を未然に防ぐ事につなげる。																	
事業内容・手段	1) 安全部会活動説明と学校とのコミュニケーションを図る為、学校訪問の実施(宮崎西小学校・5月) 2) 各地区見守りパトロール隊員の研修(6月末・約30名) 3) 各地区見守りパトロール隊員のパトロール活動 (通年・延べ1000名) 4) 青色パトロール活動・支援(4~5回/月)(通年・延べ88名) 5) 青パト隊員と部会との情報交換会 6) 不審者情報の周知、および夜間子供達への声かけ 7) 交通安全街頭キャンペーンへの参加(4回/年)(約25名) 8) 交通安全チラシ・啓発活動・巡回広報(通年) (春・秋は全戸配布。夏・冬は班回覧と掲示板)																	
事業費	95,534円																	
対象者	地域住民・防犯活動に関わる地域団体																	
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パト隊研修会</td> <td>30人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>青色パトロール</td> <td>88人</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>41人</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>159人</td> <td>157人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	パト隊研修会	30人	13人	青色パトロール	88人	91人	その他	41人	53人	合 計	159人	157人
年 度	令和6年度	令和5年度																
パト隊研修会	30人	13人																
青色パトロール	88人	91人																
その他	41人	53人																
合 計	159人	157人																
住民の声(アンケートの結果等)	・大塚台の現状について、大塚台派出所の方から説明があり、最近多い特殊詐欺の話や被害にあわない為の対処の仕方などを聞けてよかった																	

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	5月に西小学校と打ち合わせの場を設け、下校時間等を確認した。見守り活動に対して感謝されている。	広報	⑤事業の周知	A	A	青色パトロール活動強化のぼり旗や交通安全協会の旗を地域内の公園や学校に設置している。
	②住民の参加	A	A	各自治会の見守りパトロールや青パトの活動に、日常的に参加されている。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まちづくりの地域安全部会が全地区見守りパトロール隊員や青パト隊員を把握し、研修会を行っている。	事業の必要性		⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A	交通安全協会や警察署、自治会や小中学校等と連携をとり、防犯に加え交通安全への啓発にも作用した。		事業継続の必要性	(有) ・ 無		
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りパトロール隊の活動が評価され、「宮崎県安全で安心なまちづくり活動知事奨励賞」を受賞しました。 ・毎年の課題である部会員不足については、今年度2名の方が入会し、今後も募集の呼び掛けをしていきたい。 								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応	未・済			
	<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応	未・済			
	<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	自主防災事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	1. 安心・安全で災害に強いまち ◎自分達を守るため、地域をあげて災害時の体制を確立しましょう ◎命を守るため、防災意識を高めましょう 2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう														
目的 (期待される効果)	○地域社会における連携の輪を広げ、安心・安全な地域づくりに努める。 ○住民に対し、自らの命と財産を守ることへの関心を高めるとともに、地域全体の防災意識啓発を推進する。 ○地域の防災に対する関心を高める。														
事業内容・手段	1) 自主防災リーダー育成研修会 ① 11月30日(土) 10:00～(38名) 講師 NPO法人宮崎県防災士ネットワーク 伊藤 照夫事務局長 演題 「南海トラフと日向灘地震に備えて」 2) 情報交換会・研修 ① 第1回防災会議 7月23日(火) 18:00～ (21名) ② 9月7日(土) 10:00～ (38名) ・自主防災隊リーダー育成講座 ・地震講座(災害から地域を守る)														
事業費	5,892円														
対象者	地域住民・防犯活動に関わる地域団体														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>87人</td> <td>75人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>10人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>97人</td> <td>97人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	87人	75人	スタッフ	10人	22人	合計	97人	97人
年度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	87人	75人													
スタッフ	10人	22人													
合計	97人	97人													
住民の声(アンケートの結果等)	・8月に発生した地震の事もあり、関心の高い内容であった。 ・大塚台地域の場合ではどういった被害が心配されるか、地域に沿った説明があり減災についても学べた。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	各自治会や各種団体から構成されており、防災会議の時に住民の意見を踏まえ計画・実施している。	広報	⑤事業の周知	B	B	各自治会、構成員にむけての会議や研修・講演案内を行った。
	②住民の参加	A	A	各自治会の防災組織の各役割班のメンバーの中から、研修会に参加してもらった。		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各自治会の防災組織をまとめ、把握している。自治会全体にむけた研修会を開催している。	事業の効果		⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A	自治会や老人クラブ・青少年育成協議会・交通安全協会・消防団・PTA等の各種団体にも研修会に参加してもらっている。		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> ・減災に取り組み、最小限の被害にすることが一番の目標とすべきであり、共助・協働でより身近な方々と協力し、1人も取り残すことなく地域住民の安心・安全に取り組んでいく事の大事さを再確認できた。								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応	未・済			
	<意見への対応>					未・済			
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応	未・済			
	<意見への対応>					未・済			

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	災害時医療支援ボランティア活動事業	実施年数	7年目												
事業期間	開始：平成30年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	1. 安心・安全で災害に強いまち ◎自分達を守るため、地域をあげて災害時の体制を確立しましょう ◎命を守るため、防災意識を高めましょう 2. きずなが深い互助・共助のまち ◎知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう														
目的 (期待される効果)	○AED取扱い研修や救護資機材等の整備を行うとともに、大災害時における応急救護処置や避難所生活者等の感染防止対策、心のケアなどの災害時医療支援ボランティア活動を行う。														
事業内容・手段	(1) 総会・研修会 (5月 31名) 研修会 (日赤、災害時救護法) (2) 自主研修 (講師：応急手当研修センター) (9月 26名) “AEDの操作法” (3) 大塚台総合秋祭り事業への協力 (医療班) (10月) (4) 大塚台防災訓練 (11月) (5) 災害時に備えた備品等の購入 5年保存水・保存食 (6) 事業の周知活動 全戸配布チラシ作成 (会員募集：1回)														
事業費	57,728円														
対象者	各自治体・医療ボランティア会員														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>59人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>23人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>82人</td> <td>54人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	59人	23人	スタッフ	23人	31人	合 計	82人	54人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	59人	23人													
スタッフ	23人	31人													
合 計	82人	54人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・講義だけでなく実際に1人1人が三角巾を使用して、身近な怪我や打撲の対処方法が学べてよかった。 ・実際に消防署に電話をかけ、どのような事を聞かれるか分かったし、スマホであれば電話を繋いだまま救命処置の指示をしてくれる事がわかり、心強く思えた。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	今のところ宮崎では大きな災害はないが、近年、大きな自然災害が多いので、今後地域のニーズを把握していく必要がある。	広報	⑤事業の周知	A	A	秋まつり事業の救護や防災訓練等のお手伝いで参加し、医療ボランティア活動を周知している。
	②住民の参加	B	B	会員むけの研修会ではあるが、自治会にも案内し、参加してもらった。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	行政と協力し、よりよい避難所開設の為、研修会を開催している。	事業の必要性	⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	A	A	防災訓練とあわせて研修会を実施し、各自治会や防災関係者と一緒に訓練に参加し、連携がとれている。			事業継続の必要性	有・無	
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・“実演＝身体で覚える”がよかった。 ・AEDは、このような研修の機会がないと使い方も忘れてしまう。また、AEDがどこにあるのか住民は知っていた方がよいし一度でも触れておくことは大切だと思う。救命処置やAEDを使う事は、一生に一度あるかないかの事ではあるが、今回の研修だけで習得できるものではないので、繰り返し訓練する事が大切である。 							
地域協議会からの意見への対応		<意見への対応>					対応	未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未・済	
		<意見への対応>					対応	未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2] 地域福祉に係わる事業

事業名	ふれあい活動事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動をすすめます。しょう。 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎子どもは地域の宝。学校との交流を進めましょう。														
目的 (期待される効果)	○高齢者に交流の場を提供し、コミュニケーションを深める。 ○引きこもりを防止し、介護予防につなげる。 ○情報交換の中から、安心・安全に関する情報を得たり、趣味や同好の輪を広げるきっかけを作る。														
事業内容・手段	1) 全地域住民対象に映画鑑賞会 6月28日「続ぼけますから、よろしくお願ひします」 参加者 52名 8月2日「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」 参加者 41人 2月26日「九十歳。何がめでたい」 参加者 75名 2) 福祉講演会 9月27日「知って学んで実践しよう!あなたのいきいき手帳で介護予防」 参加者 29人 3) サークル活動充実の為の交流会 11月27日「高齢化に伴うこれからのサロン活動について」 参加者 28人														
事業費	54,069円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>201人</td> <td>174人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>24人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>225人</td> <td>201人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	201人	174人	スタッフ	24人	27人	合 計	225人	201人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	201人	174人													
スタッフ	24人	27人													
合 計	225人	201人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・映画の内容はたいへん素晴らしく何度もみたいくらいだった。自分だけでなく、周囲にも同じように認知症や高齢化への不安を抱えている方が多いので、地域で繰り返し多くの方に見ていただきたいと思う。 ・福祉講演会の中で「大塚台は高齢化率は高いが要介護認定率は低く皆さんが健康に歳をとっている現状である」というお話があり、参加者にとっては心強い情報だったと思う。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項		
	本年度	前年度			本年度	前年度			
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	参加された方にアンケートを実施したことで、観たい作品の希望をたくさん知る事ができた。	広報	⑤事業の周知	B	B	映画や講演会のチラシを全戸配布・公民館・地域事務所などにも配布している。
	②住民の参加	A	A	映画鑑賞会では、興味のある作品だったのかたくさんの方が参加してくれた。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	映画の待ち時間でのおしゃべりも楽しみであり地域住民の交流の場として引きこもり防止にも繋がっている。			⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A	大塚台にあるサークル団体のそれぞれの現状と悩みなどを話す機会となり、今後も連携をとって活動を続けたい。	事業継続の必要性		有・無		
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークルの役員のなり手不足や会員減少に悩んでいる代表の方が多かったので、今後その解決に役立つ取組みを検討する必要を感じた。 								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未・済		
	<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未・済		
	<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で作された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

事業名	子育て支援事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成25年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎新米のお父さんお母さんに手助けしましょう ◎子どもは地域の宝。学校との交流を深めましょう														
目的 (期待される効果)	○食の提供を通して食の大切さを学ぶ ○こどもの貧困、孤食を考える ○未就学児を子育て中の親の連携・強化 ○育児の悩みやストレスの解消 ○こどもの健康や安全、しつけなどについて学ぶ														
事業内容・手段	1)子ども食堂福祉サポーター食品衛生講習会 日時・会場 7月18日 大塚台社会福祉協議会 参加者15名 2)子ども食堂 開催日 ①7月26日 参加者 74名 ※ニュースポーツ ②8月17日 参加者 45名 ※手品 3)宮崎市子ども食堂ネットワーク会議・研修														
事業費	85,183円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>71人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>48人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>119人</td> <td>54人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	71人	16人	スタッフ	48人	38人	合 計	119人	54人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	71人	16人													
スタッフ	48人	38人													
合 計	119人	54人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館でのスポーツがとても楽しかった。 ・たくさんの手品が見られて楽しかった。 ・初めて防災食を食べたが意外とおいしかった。 ・友達と一緒に参加できて嬉しかった。 ・最後のお菓子のつかみ取りが面白かった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項		
	本年度	前年度			本年度	前年度			
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	子ども達と一緒に食事をする時に、食べたいメニューや要望を聞いて参考にしている。	広報	⑤事業の周知	B	B	学校中心にチラシを配布したが、マチコミメールでも案内してもらおうとよかった。
	②住民の参加	B	B	今年は1回目の子ども食堂を平日にしたが、夏休みに入った小学生の参加が多かった。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	ボランティアで中高生が参加してくれ、子ども達と一緒に競技に参加したり、見守りや、配膳・片付け等をしてもらって助かった。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の子どもの夏の居場所づくりの一役を担っている。		⑦住民の満足度	A	A	夏休みの平日だったので、友達と体育館でスポーツをしたり、ご飯も一緒に食べれて楽しかった。
	④各種団体との連携	A	A	勉強会や研修会にも参加し、情報を共有したり、フードドライブの利用など積極的に取り組んでいる。	事業継続の必要性		有 ・ 無		
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座によるニュースポーツを行ったが、チームワークで競技を楽しんでいた。 ・ 中学生ボランティアが、受付や準備、小学生のお世話をしてくれて、とても助かった。 ・ 体育館でも食事会場でもマイクがあった方がよかったので、来年は準備する。 ・ 体育館は暑いので、大型扇風機や飲み物を準備し、熱中症対策をしっかりする。 								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未 ・ 済		
	<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未 ・ 済		
	<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	ボランティア事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始：平成26年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎ 高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれ合い活動をすすめてみましょう ◎ 知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう														
目的 (期待される効果)	○ボランティア活動に対する住民の理解と関心を高め、会員の資質向上、情報の共有を図ることにより、大塚台地域住民のニーズに対応した良質なボランティアを提供する。 ○会員の相互理解と融和を図り、住民どうしの絆づくり、生きがいづくりに寄与する。														
事業内容・手段	1) 会員交流会 開催日 12月7日 西3丁目 (ボランティア活動・ゲーム・ふれあい座談 等) 2) ボランティア活動 390件/年 ①ゴミ出し 299件 ②話し相手 12件 ③病院同行 12件 ④買い物 10件 ⑤銀行振込 19件 ⑥室内清掃 3件 ⑦電球交換 1件 ⑧包丁研ぎ 27件 ⑨その他 7件														
事業費	21,966円														
対象者	地域住民 ボランティア会員														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動件数</td> <td>390件</td> <td>605件</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>-</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td>相談員</td> <td>10人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	活動件数	390件	605件	一般	-	57人	相談員	10人	8人
年 度	令和6年度	令和5年度													
活動件数	390件	605件													
一般	-	57人													
相談員	10人	8人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて交流会に参加した。1人暮らしとなり、今日はたくさんの人と話ができて楽しかった。 ・包丁を毎年研いでもらって、今年も待っていた。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項		
	本年度	前年度			本年度	前年度			
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	A	ボランティアセンターの事務局がなくなった為、自治会の相談員に直接依頼となった。報告書で把握している。	広報	⑤事業の周知	B	B	会員報やボランティアセンターだよりをだしておらず、周知があまりできなかった。
	②住民の参加	B	B	各自治会に協力会員の中から相談員として参加してもらっているが、ボランティアの依頼も限られた人になっている。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	高齢化に伴いボランティアの必要性が増してくる中、ボランティアする側も高齢の為、今後の活動を考える必要がある。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	A	決まった地区、決まった人からの要望が多く、相談員も高齢化しているので、まちづくりでの取組の難しさを感じる。		⑦住民の満足度	B	A	交流会の開催が1カ所だけだったが楽しみにされていた。包丁をといでもらい助かります。との声があった。
	④各種団体との連携	B	A	以前開催していた研修会やイベントなどもない為、各種団体と連携できないことがない。	事業継続の必要性		○有 ・ 無		
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・西3丁目の包丁研ぎが定着し、心待ちにされていることは良いことだと思う。 ・交流会を開催できたのが西3丁目だけであった。相談員の方も高齢化し、なかなかそういった活動が難しくなっている。 <p>ボランティアセンターの事務局がなくなり、決まった方へのボランティア活動となっている。</p>								
地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）></p>				対応	未・済			
	<p><意見への対応></p>								
地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）></p>				対応	未・済			
	<p><意見への対応></p>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が【未】の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が【済】になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[3] 環境に係る事業

事業名	里山創造活動事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう ◎知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう 3. 若者も高齢者もすみよいまち ◎花いっぱいのもちづくりを推進しましょう。														
目的 (期待される効果)	○団地内に隣接する緑地帯の荒れた山林を手入れし、毎月1回の草刈りや清掃活動をとおして、団地住民が憩える安らぎの里山として再生させる。														
事業内容・手段	1) ものづくり活動（毎月定例として 第165回～第176回） ・緑地林を育成・整備・管理し、癒やしの森として整備 ・月1回のボランティア参加の定例作業会として ・遊歩道整備 2) 里山活用研究活動 ・暮らしに役立つ植物の選択と調理・加工（竹の子 4月） ・竹細工と暮らしへの利活用 3) 青少年健全育成 ・甘藷植え付け作業指導 ・西小学校花壇の花の植栽への協力（全児童との合同作業） ・5年生41名への竹ぼうき作り支援 ・西小学校芋掘り体験支援（新1年生も一緒に）														
事業費	131,330円														
対象者	地域住民・参加ボランティア・緑地林利用者														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>80人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>264人</td> <td>239人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>344人</td> <td>239人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	80人	0人	スタッフ	264人	239人	合 計	344人	239人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	80人	0人													
スタッフ	264人	239人													
合 計	344人	239人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回自分の健康づくり、生きがいがづくりの為に参加しており作業が楽しい。 ・竹ぼうき作りでは、ひとり1本ずつ自分で作った「世界で1本」しかない貴重な清掃道具なので、嬉しかった。 ・芋掘り体験は、芋が大きくて、なかなかぬけなかった。 ・たくさん芋が掘れて楽しかった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	整備作業のほか小学校の学習支援として、花の植栽や芋の苗植え、竹ぼうきづくりなど、要望を把握し活動している。	広報	⑤事業の周知	B	B	新一年生を対象にした芋掘りや、小学校の支援をする事で、里山の活動を周知している。	
	②住民の参加	A	A	定例作業では有志会員として、住民の方の協力が得られている。			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	里山を散策する人や子ども達が遊びに入っても安心して利用できるように、整備が必要である。	事業の必要性	⑦住民の満足度			A	A
	④各種団体との連携	B	B	里山整備実行委員会の協力のもと、毎回の作業をおこなっているが、会員の高齢化がすすみ他の団体の協力も必要である。			事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹ぼうきの穂枝を確保する為、2月に孟宗竹を伐採したが11月利用の為、8カ月保管すると、枝が老朽化して折れやすくなっていた。来年度は、7月頃に伐採し、3カ月程度が良いと判断される。 ・芋掘り体験に新一年生8人が親御さんと共に参加してくれた。 								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応		未・済	
		<意見への対応>					対応		未・済	
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応		未・済	
		<意見への対応>					対応		未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	環境美化活動事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	<p>2. きずなが深い互助・共助のまち ◎知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう</p> <p>3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎花いっぱいのもちづくりを推進しましょう。 ◎商店街が活気あるところになるよう、努力しましょう。</p>														
目的 (期待される効果)	○公的利用のグリーンヒルズ敷地内の花壇を整備し、花を植栽することにより、大塚台団地住民や買い物客等への心の安らぎと憩いの場を提供する。														
事業内容・手段	<p>1) 春・夏作の植え付け準備・作業 実施時期 ①6月2日 ②6月8日 会場 グリーンヒルズ大塚台花壇 内容 ①前作の花の掘り上げ、土耕し、整地、施肥、薬剤散布 ②マリーゴールドをはじめ春・夏作花の植え付け作業</p> <p>2) 秋・冬作の植え付け準備・作業 実施時期 ①11月2・3・4日 ②11月10日 会場 グリーンヒルズ大塚台花壇 内容 ①前作の花の掘り上げ、土耕し、整地、施肥 ②ビオラをはじめ秋・冬作花の植え付け作業 ※グリーンヒルズ住民の作業への参加を呼びかける</p> <p>3) 宮崎西小学校、花の植栽作業 実施時期 ①6月19日 ②12月11日</p>														
事業費	63,514円														
対象者	地域住民、参加ボランティア、グリーンヒルズ住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>228人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>17人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>245人</td> <td>53人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	228人	33人	スタッフ	17人	20人	合 計	245人	53人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	228人	33人													
スタッフ	17人	20人													
合 計	245人	53人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・西小学校の全児童が参加しての花の植栽体験学習となった。 ・生徒によって植え方が違うので、大人が修正作業をする箇所が多くみられた。 ・グリーンヒルズ花壇の花植えは、小学生が数人参加してくれて、和気あいあいの中で楽しく作業を実施していた。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	グリーンヒルズの2名の方に環境部会に入ってもらっているのですが、情報を共有したい。	広報	⑤事業の周知	B	B	環境部会より住民や里山の会員の方へも呼び掛けをした。管理会社にも住民への呼び掛けをしてほしい。
	②住民の参加	B	B	作業日を休日に設定して参加を期待したが、住民の参加はあまり増えなかった。		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	グリーンヒルズの管理会社に任せたいが、自治会が解散したことで、引き続き協力をお願いされている。			⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	B	B	グリーンヒルズ大塚台の住民や管理会社と情報共有を行う。里山会の会員の協力をたくさんいただいている。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンヒルズ花壇はクボタ住宅の土地であるが、公の利活用なので、環境部会員、里山会員も一緒になって植栽作業に従事している。 ・グリーンヒルズの住民の参加が少ないので、クボタ住宅からも案内などで参加してもらうように呼び掛けをしてもらいたい。 							
地域協議会からの意見への対応		<p><地域協議会からの意見（令和 5年5月2日 ）></p> <p>グリーンヒルズの花壇の植栽は、地権者の協力を得るように努めて下さい。</p> <p><意見への対応></p> <p>グリーンヒルズ住民の方に部会に入ってもらい、参加よびかけをしてもらってはいるが、参加者はなかなか増えていない。</p>				対応		未・済	
		<p><地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>				対応		未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4] 健康づくりに係る事業

事業名	ソフトバドミントン交流事業	実施年数	2年目												
事業期間	開始：令和5年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう。 ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動を進めましょう。														
目的 (期待される効果)	○スポーツを通じ、各世代の交流を促すことを目的とし、子どもからお年寄りまで幅広く競技者を募る。 ○宮崎西小学校の体育館を利用させていただき、各地域、各世代より参加者を募り競技人口の拡大に努めたい。														
事業内容・手段	○ソフトバドミントン交流大会 開催日 1月25日(土)9時30分～12時 会場 宮崎西小学校														
事業費	12,837円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>5人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>18人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	13人	12人	スタッフ	5人	3人	合 計	18人	15人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	13人	12人													
スタッフ	5人	3人													
合 計	18人	15人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・去年も参加したが、和気あいあいとできて楽しかった。 ・親子、夫婦、兄弟、友達同士でバドミントンができて楽しかった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	子どもから大人まで参加できるような競技内容にしている。	広報	⑤事業の周知	B	B	チラシを全戸配布して周知した。よさこいソーラン会の子ども達に声をかけてもらったり、まちコミメールで周知した。
	②住民の参加	B	B	住民の参加は、少なかったが、昨年も参加した人が、また参加してくれていた。		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	地域住民の健康増進の為、まちづくりで体を動かす機会をつくり、住民全体を対象とした活動をしている。	事業の必要性		⑦住民の満足度	B	B
	④各種団体との連携	B	B	小中学校やよさこいソーラン会など連携し、学校からも案内や呼び掛けをしてもらっている。		事業継続の必要性		○有 ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・参加人数が少ないが、去年参加してくれた人達の参加があり、楽しみにしてくれていた。 ・小学校へもチラシを配布して、子ども達にもたくさん参加してもらえようようにしたい。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	ウォーキング事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう。 ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう。 ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動を進めましょう。</p> <p>3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎新米のお父さんお母さんに手助けしましょう。</p>														
目的 (期待される効果)	○大塚台地区の住民の親睦を深め、健康維持・増進を図る目的で、バス旅行を兼ねたウォーキングを開催。														
事業内容・手段	開催日 11月17日(日)9時30分～13時 (1) 大塚台地区社協へ集合 → 平和台公園へバス移動 (2) 平和台公園散策 約1時間程度 (3) 平和台公園にて昼食 → 大塚台地区社協へバス移動														
事業費	56,472円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>20人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>9人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>29人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和5年度は日程・参加者の都合つかず実施なし。</p>			年度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	20人		スタッフ	9人		合計	29人	
年度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	20人														
スタッフ	9人														
合計	29人														
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりに平和台公園に来て嬉しかった。 ・バスでみんなで出かけられて楽しかった。 ・ウォーキングコースは長くて上り下りがあったが、天気も良く気持ちよくウォーキングできた。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A		近場や地域内のウォーキングでは参加者が集まらなかった事をふまえて、バスを使っのウォーキング事業を計画した。	広報	⑤事業の周知	B		チラシを全戸配布しているが、小学校のまちコミメールなども利用していく。
	②住民の参加	B		中型バスを利用したので、もう少し参加人数が増えるよかった。		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A		ウォーキングを通して住民同士の親睦を深め、健康増進・維持を目的として取り組んでいる。			⑦住民の満足度	A	
	④各種団体との連携	B		各種団体との連携はあまりないが、今後は各種団体にも参加を呼び掛けたい。	事業継続の必要性		○有 ・ 無		
良かった点・改善点等		<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく中型バスを借りたので、もう少し参加人数が増えるよかった。 ・自分では来れなかったので、久しぶりに来れて、昔子ども達と来た事を思い出したと話されていたので、バスを使っの計画を今後も考えたい。 							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応		未・済
	<意見への対応>						対応		未・済
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応		未・済
	<意見への対応>						対応		未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	大塚台高齢者支援事業	実施年数	4年目												
事業期間	開始：令和3年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	1. 絆が深い互助・共助のまち ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動を進めましょう。 住み慣れた大塚台、いつまでも、元気で														
目的 (期待される効果)	○大塚台地区内の高齢者の移動の手助けのために、軽自動車を活用して、地区内の高齢者の病院通い(リハビリなど)やお買い物をサポートする。この取り組みを通じて、高齢者の閉じこもりを防止し、積極的な外出活動を支援し、健康増進を図る。														
事業内容・手段	1) ボランティアのドライバーによる送迎支援事業 2) リハビリ施設や病院通いの手助け 3) お買い物の送迎支援 4) その他、閉じこもりを防止し、積極的な外出活動を支援する														
事業費	342,790円														
対象者	大塚台団地住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般利用者</td> <td>1,192人</td> <td>1,097人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>3人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,195人</td> <td>1,101人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般利用者	1,192人	1,097人	スタッフ	3人	4人	合 計	1,195人	1,101人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般利用者	1,192人	1,097人													
スタッフ	3人	4人													
合 計	1,195人	1,101人													
住民の声 (アンケートの結果等)	※事業内容に応じて男女別や年代別データ <ul style="list-style-type: none"> ・病院やお店に直接送迎してもらえるので、とても助かっています。 ・病院に行くのに、バスの本数が少ない為、時間があわないと待ち時間がきつく大変でしたが、サポートカーのおかげで安心して病院に通う事ができています。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	利用者の希望時間、希望場所を聞き、運行している。	広報	⑤事業の周知	B	A	以前カラーのチラシを配布したが、まだまだ知らない人も多いので、来年度は再度チラシを配布したい。
	②住民の参加	B	B	継続で利用する住民がたくさんいるが、新規の方はあまり入っていないので、周知していく必要がある。		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まちづくりが運営に携わることで、地域全体や自治会と連携ができる。	事業の効果		⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	B	B	各種団体から協力を得ており、今後更なる協力関係の充実を図る。		事業継続の必要性		○有 ・ 無	
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスが通ってはいるが、本数も少なく、バス停までも坂が多いので高齢者は大変である。高齢化率が高い大塚台ではサポートカーを運行しているが、運転手もボランティアでは申し訳ないほどの責任と時間の拘束があり、無償では申し訳なく思う。大塚台だけの問題だけではないので、まちづくりの事業として今後運行しやすくなってほしいと思っている。 								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応		未・済
	<意見への対応>						対応		未・済
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応		未・済
	<意見への対応>						対応		未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	少年が大志を抱く事業 ～未来の大塚台を担うリーダー育成～	実施年数	6年目												
事業期間	開始：令和元年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎こどもは地域の宝。学校との交流を進めましょう														
目的 (期待される効果)	<p>○現代の子どもたちに失われているという3つの「間」、すなわち「時間」「空間」「仲間」を少しでも回復し、子どもの成長を後押しする地域の力を育む。</p> <p>○子どもの発想・子どもの手による事業を形成するために、地域の人やPTAは子どもと共に考え、子どもを応援していく。</p> <p>○子育ては、地域を挙げて取り組むという意識を地域全体に浸透させていく。</p> <p>○子ども会の休会・閉会の増加により、縮減している児童向け行事を活性化する。</p>														
事業内容・手段	<p>1) 生かせる地域の力を発掘し、団体や個人の協力を求め、子どもと大人の接する場をつくる。</p> <p>・カーフェリー見学・砂の造形 実施日 9月29日(日) 参加者 22名</p> <p>2) 子どもに豊かな心を育む行事を通して、地域での子育ての基盤を支える。</p> <p>・科学教室 実施日 2月8日(土) 参加者 42名</p>														
事業費	99,339円														
対象者	子ども・PTA・地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和65年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>55人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>9人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>64人</td> <td>32人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和65年度	令和5年度	一般参加者	55人	29人	スタッフ	9人	3人	合計	64人	32人
年度	令和65年度	令和5年度													
一般参加者	55人	29人													
スタッフ	9人	3人													
合計	64人	32人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・カーフェリーが豪華になってびっくりした。 ・砂遊びに夢中になった(大人も) ・液体窒素につけると、いろいろなものがすぐに凍ってしまっ て、テニスボールやお花が砕けたりするのを体験できて勉強 になりました。 ・アイスクリーム作りが楽しかった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	B	小学校の全児童を対象にアンケート調査を行い、興味のあるイベントや参加しやすい日時など把握した。	広報	⑤事業の周知	B	B	行事ごとに、小中学校や西小っ子クラブへチラシを配布。SNSを使った広報。
	②住民の参加	A	B	行事によって、人数の差はあるが、科学教室は興味を持った子供たちがたくさん参加してくれた。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	大塚台子連協の休止で、体験の機会が減った児童らに、まちづくりがひきついで体験的なキャリア教育を行いたい。	事業の必要性	⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	B	B	学校や各種団体と連携して実施している。			有	無	
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学校の授業や、家庭ではなかなか乗ることのないカーフェリーについて、体験的に学ぶことで、子どもも大人も楽しみながら社会的教養を得る事ができた。 ・大塚台子連協がなくなった事で、宮崎市子連主催の砂の造形コンクールに参加する児童が減った為、その部分の体験を補填できた事は良かったと思う。 ・子ども達の興味関心が非常に強く、積極的に実験に参加してくれた。 ・小学生にはわかりにくい内容もあったので、次回は実験や説明を精選し、全体の計画を講師に提示することで、よりよいイベントを目指したい。 								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応	未・済	
	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応	未・済	
<意見への対応>						対応	未・済		

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[6] その他の事業

事業名	リーダー育成事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎さまざまな行事に、地域みんなに参加しましょう ◎知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎商店街が活気あるところになるよう、協力しましょう														
目的 (期待される効果)	○宮崎西小学校5年生の総合的な学習の一環で、まちづくり推進委員会を含めた地域との交流をテーマに、児童が主体的に考え、実践するという授業の実施。 ○各種研修会への参加・研修会の開催 まちづくりの参考となる、他の地域での研修会などにも参加。まちづくりに関わる地域住民の方々が、学びたい事や体験したい事に楽しく参加できるような研修や活動を提案。今後のまちづくり推進委員会事業に興味をもっていただける様な企画とする。														
事業内容・手段	1)宮崎西小学校5年生との交流事業 日時 10月29日(火)9:00~12:00 内容 今年度は5年生との交流事業は、竹ぼうきづくりを里山会が中心になって活動した。 里山会員 10名 5年生を6班に分け、各班に里山会員が指導者として入り、竹ぼうき作りを指導した。														
事業費	5,407円														
対象者	地域住民・宮崎西小学校5年生・推進委員														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>43人</td> <td>164人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>12人</td> <td>75人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>55人</td> <td>239人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	43人	164人	スタッフ	12人	75人	合計	55人	239人
年度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	43人	164人													
スタッフ	12人	75人													
合計	55人	239人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で作った竹ぼうきなので大事に使います。 ・初めて作ったけど、枝を揃えて切るのが難しかった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	A	小学校の総合学習として、小学校の要望を聞きながらまちづくりが協力している。	広報	⑤事業の周知	B	B	里山会の方が、学校と打ち合わせを行った。人数が足りない為、ほかの部会へも周知していきたい。
	②住民の参加	B	B	里山会を中心に、小学校5年生との竹ぼうきづくりを行った。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	5年生の学習支援として、学校と地域住民の方の接する機会をまちづくりが繋いでいる。	事業の効果	⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	B	B	今年度は、里山会と環境部会と連携して、学校花壇の花植えや竹ぼうきづくりを行った。			事業継続の必要性		○有 ・ 無
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> ・竹ぼうきの材料は里山会の方々が2月頃に孟宗竹を伐採したが、11月利用の為、枝が老朽化していたので、来年は7月頃に伐採したい。								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応	未・済	
	<意見への対応>							未・済	
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応	未・済	
	<意見への対応>							未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	大塚台総合秋祭り事業	実施年数	5年目												
事業期間	開始：令和2年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎商店街が活気あるところになるよう、協力しましょう														
目的 (期待される効果)	○大塚台地域まちづくり推進委員会が「大塚台秋まつり事業」を主催することにより、大塚台自治区の全世帯住民が交流・結束し合う場となるとともに、地域発展の中核事業となることを目指す。														
事業内容・手段	(1)大塚台総合秋祭り 1)秋祭り内容・・・実施時期 10月12日(土)に実施 参加人数 約1,012名 ①各種団体によるステージ(歌・遊戯・コーラス・吹奏楽・ダンス等) ②各自治会等による出店(焼き鳥・焼きそば・綿菓子・野菜販売) ③参加者全員を対象にしたお楽しみ抽選会 ④子ども達を対象にした縁日 ⑤住民総踊り														
事業費	346,723円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>894人</td> <td>1,119人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>118人</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,012人</td> <td>1,160人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	894人	1,119人	スタッフ	118人	41人	合計	1,012人	1,160人
年度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	894人	1,119人													
スタッフ	118人	41人													
合計	1,012人	1,160人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージは地元の幼稚園～高校生、社会人まで幅広く出演していて、活動の披露の場に最適だと思う。 ・せんぐまき、抽選会は子ども達、大人も楽しく参加できてよかった。 ・去年もでしたが、午前中でポテトが完売しており、子ども達がステージが終わってから、買うことができなかった。午後になると食べ物がないので、量を増やすか販売時間をずらすか工夫してほしい。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	実行委員会を開き、自治会や各種団体からの意見を聞きながら実施した。	広報	⑤事業の周知	B	B	カラー印刷でチラシを全戸配布し周知した。来年度は、学校のまちコミメールを利用したり、お店に掲示してもらったり、広く周知したい。
	②住民の参加	A	A	園児や小中学生に加え、高校のダンス部もステージ参加があり、見に来てくれた保護者やたくさんの住民の方が参加していた。			事業の効果	⑥課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	大塚台地区を代表した大きなイベントで、まちづくり推進委員会を中心に各種団体と連携がとれている。	事業の必要性	⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	A	A	実行委員に各自治会長や団体の代表に入っただき、小中学校とも連携をとりながら開催できた。			事業継続の必要性	◎有 ・ 無	
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎西高校にボランティアの募集をお願いしたところ4名参加してくれた。受付や出店の対応をしてもらったが、混雑する中、落ち着いて対応してくれ、とても助かった。大塚台では高齢者が多いため、若い高校生が参加してくれる事で、活気づくので、来年度もお願いしたい。 ・ステージの出演時間のずれが、子ども達の負担になったので、進行を見直し、入れ替え時の工夫、時短の方法を考えてスムーズに進行できるようにしなければならない。 ・今年度は、音響が外まで届くようにしたが、出店している方やお客さんに、ステージの状況などが届いてよかった。 ・今年度は、警備係を消防団に協力していただき、とても助かった。 								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応	未・済	
	<意見への対応>							対応	未・済
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応	未・済	
	<意見への対応>							対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	まちづくり事業活動支援事業	実施年数	13年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	1. 安心・安全で災害に強いまち ◎地域の見守りに取り組みましょう ◎命を守るため、防災意識を高めましょう 2. きずなが深い互助・共助のまち ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎商店街が活気あるところになるよう、協力しましょう														
目的 (期待される効果)	○まちづくり推進委員会で車をリースし、事業活動の運営や広報、また事務局の円滑な運営活動に役立てる。 ○各事業の運営に必要な会議、準備を円滑に進める。 ○まちづくり広報活動として、チラシや情報紙を発行する。 ○まちづくり事務局運営を円滑に進める。														
事業内容・手段	(1) リース車両 実施時期 通年 使用例 まちづくり推進委員会各事業活動時、事務局運営時 防犯パトロール活動時、防災広報活動時 (2) パソコン・プリンターのリース (3) 事業活動の広報 ①事業チラシ ②情報紙発行 ③SNSの活用(Facebook) 実施時期 ①随時 ②7月、3月 ③随時 (4) 各部会の開催 (5) 事務局運営														
事業費	871,630円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和6年度	令和5年度	一般参加者			スタッフ			合計		
年度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者															
スタッフ															
合計															
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> 各部会の事業実施の際は、部会員とコミュニケーションをとり事務局と一緒に考えたり準備をしてスムーズな活動ができている。 広報紙やイベントチラシは事務局で引き受けているが、興味を持てるよう工夫されている。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	年に6回役員会を開催し、部会員に随時、意見・要望を聞き行動している。	広報	⑤事業の周知	B	B	地域内全戸配布による広報紙だけでなく、公民館や社協、小学校への配布や掲示をしている。SNSやまちこみメールなどでの案内を積極的にしていきたい。
	②住民の参加	B	B	事業の特性上、住民の参加等はない。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	すべての部会に関わり、協力しながら活動をする上で重要な事業である。	⑦住民の満足度				A
	④各種団体との連携	B	B	行事のたびに、自治会や各種団体の参加協力をしていただいた。			事業継続の必要性		○有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・どの部会も高齢化がすすみ、事務局が入らないと事業ができない状況になってきている。 ・部会員も年々減少しているため、まちづくりに興味をもってもらえるような広報活動をしたい。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	地域安全見守りパトロール応援事業
-----	------------------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	95,534	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	95,534	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	95,534	消耗品費 63,424 ・のぼり旗(交通安全協会) 25,800 ・のぼり旗(ポール) 2,460 ・パトロールベスト(12枚) 35,164 食糧費 14,242 ・会議用・パトロール用お茶 8,116 ・街頭キャンペーン時お茶 6,126 燃料費 17,868
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	95,534	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	自主防災事業
-----	--------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	5,892	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	5,892	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	5,892	消耗品費 1,620 ・講師お礼 お菓子 1,620 食糧費 4,272 ・お茶 4,272
5	役員費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	5,892	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	災害時医療支援ボランティア活動事業
-----	-------------------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	57,728	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	57,728	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	6,000	講師料(2名)
3	旅費	0	
4	需用費	51,728	消耗品 51,728 ・研修会(1回) 講師お礼 菓子 1,728 ・備蓄おにぎり50個× 保存水24本 50,000
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	57,728	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	ふれあい活動事業
-----	----------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	54,069	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	54,069	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費		講師謝金
3	旅費	0	講師旅費
4	需用費	54,069	消耗品費 13,353 ・映画鑑賞会DVD(2枚) 5,298 ・研修会 講師お礼菓子 1,620 ・コピー用紙 6,435 食糧費 40,716 ・お茶、茶菓子(映画鑑賞) 17,834 ・お茶、茶菓子(福祉講演会) 4,307 ・お茶、茶菓子(サークル活動) 8,802 ・会議用お茶 9,773
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	54,069	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	子育て支援事業
-----	---------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎活動交付金	85,183	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入		
4	合計 (A)	85,183	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	2,000	講師謝金(1回分) 2,000
3	旅費	0	
4	需用費	80,183	消耗品費 10,028 ・養生テープ 500 ・カップ・カレー容器他 6,288 ・講師お礼 お菓子 3,240 食糧費 70,155 ・賄材料費 49,085 ・カップゼリー 492 ・お茶・飲料 16,512 ・つかみ取り用お菓子 4,066
5	役務費	3,000	1日保険料 3,000
6	負担金	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	85,183	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	ボランティア事業
-----	----------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	21,966	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	21,966	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	5,866	消耗品費 0 食糧費 5,866 ・お茶菓子(地区別交流会) 5,866
5	役務費	16,100	保険料 16,100 ・ボランティア保険加入料 (350円×46人) 16,100
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	21,966	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	里山創造活動事業
-----	----------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	131,330	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	131,330	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	18,900	消耗品費 4,600 ・塩ビパイプ 4,600 修繕費 14,300 ・チェーンソー修理代 14,300
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	82,510	万能杭他 82,510
9	備品購入費	29,920	カメラ 29,920
10	積立金	0	
11	合計 (B)	131,330	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	環境美化活動事業
-----	----------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	63,514	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	63,514	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	52,514	消耗品費 47,201 ・肥料代 19,630 ・ゴミ袋 1,823 ・種・種じゃがいも・甘藷苗 15,084 ・防虫網・支柱他 10,664 食糧費 5,313 ・作業休憩時お茶・菓子 5,313
5	役員費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	11,000	ホース
10	積立金	0	
11	合計 (B)	63,514	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	ソフトバトミントン交流事業
-----	---------------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	11,737	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	1,100	参加料
4	合計 (A)	12,837	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	11,837	消耗品費 9,797 ・賞品 9,467 ・シヤトル 330 食糧費 2,040 ・お茶 2,040
5	役務費	1,000	保険代 1,000
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	12,837	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	ウォーキング事業
-----	----------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	52,672	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	3,800	参加料
4	合計 (A)	56,472	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	9,792	消耗品費 0 食糧費 9,792 ・スタッフ弁当 6,000 ・お茶(参加者) 3,792
5	役務費	2,900	1日保険(国内旅行保険) 2,900
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	43,780	貸し切りバス代 43,780
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	56,472	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	高齢者支援事業
-----	---------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	192,790	
2	令和5年度繰越金	150,000	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	342,790	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	185,448	燃料費 168,590 修繕費 16,858 ・車検部品 16,858
5	役務費	145,542	サポートカー保険料 102,200 自賠責保険 17,540 手数料(車検作業料) 25,802
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	公課費	11,800	軽自動車税 5,000 重量税・印紙税 6,800
11	合計 (B)	342,790	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	少年が大志を抱く事業～未来の大塚台を担うリーダー育成～
-----	-----------------------------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	99,339	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	99,339	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	6,000	科学教室 講師料 6,000
3	旅費	0	
4	需用費	29,434	消耗品費 23,876 ・砂の造形 賞品 5,396 ・茶菓子 2,038 ・科学教室実験用材料 16,442 食糧費 5,558 ・スタッフ弁当代 4,520 ・スタッフ・参加者 飲料 1,038
5	役務費	5,425	1日保険料 5,425
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	58,480	貸し切りバス代 56,980 レンタルルーム使用料 1,500
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	99,339	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	リーダー育成事業
-----	----------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	5,407	
2	令和5年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	5,407	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	5,407	消耗品 3,751 ・竹ぼうき作り 材料 3,751 (西小5年生交流授業) 食糧費 1,656 ・お茶 1,656
5	役員費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	5,407	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	大塚台総合秋祭り事業
-----	------------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	212,273	
2	令和5年度繰越金	100,000	
3	雑収入	34,450	綿菓子売上・寄付金
4	合計 (A)	346,723	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	320,323	消耗品費 227,103 ・抽選会 賞品 129,540 ・ステージ出演者 景品 34,439 ・せんぐまき用お菓子 25,456 ・綿菓子用割り箸・ザラメ 5,200 ・材料他 5,062 ・紅白餅 19,000 ・ビニール袋・事務用品他 8,406 燃料費 1,253 ・軽トラック 1,253 食糧費 83,392 ・スタッフ弁当 79,600 ・お茶・お菓子 3,792 印刷製本費 8,575 ・開催案内チラシ 8,575
5	役員費	8,100	1日保険 8,100
6	委託料	5,000	司会 5,000
7	使用料及び賃借料	13,300	綿菓子用 機材 3,300 音響 10,000
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	346,723	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	まちづくり事業活動支援事業
-----	---------------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	67,821	
2	令和5年度繰越金	803,012	
3	雑収入	797	預金利息
4	合計 (A)	871,630	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	46,400	日当(日南市 授賞式) 4,400 役員活動費(14名分) 42,000
4	需用費	307,520	消耗品費 192,081 ・事務用品・用紙・インク 179,351 ・衛生用品 6,106 ・SDカード・塩ビパイプ・横断旗 2,726 ・ゴミ袋・ポリ袋 3,898 食糧費 27,554 ・会議用お茶 27,554 印刷製本費 12,863 ・広報紙 12,863 燃料費 42,022 ・リース車両給油 42,022 修繕料 33,000 ・床シート補修工事 33,000
5	役務費	70,494	手数料 1,760 ・振込手数料 1,760 通信運搬費 68,734 ・切手 140 ・電話・インターネット利用料 68,594
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	447,216	車両リース代 363,000 パソコン・プリンターのリース 84,216
11	合計 (B)	871,630	
収支差額 (A) - (B)		0	

(様式第6号)

積立金管理状況報告書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

積立金名称	事業運営積立基金
-------	----------

積立金収支 (単位：円)

項目	金額	備考
前年度までの積立額 (A)	1,950,540	
今年度積立額 (B)	0	
雑収入	893	預金利息
今年度取崩額 (C)	0	
合計 (A+B-C)	1,951,433	

積立金名称	
-------	--

積立金収支 (単位：円)

項目	金額	備考
前年度までの積立額 (A)		
今年度積立額 (B)		
今年度取崩額 (C)		
合計 (A+B-C)	0	

積立金名称	
-------	--

積立金収支 (単位：円)

項目	金額	備考
前年度までの積立額 (A)		
今年度積立額 (B)		
今年度取崩額 (C)		
合計 (A+B-C)	0	

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和7年5月20日

宮 崎 市 長 殿

主たる事務所の所在地 宮崎市大塚台西2丁目18番地1
名 称 大塚台地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名 会長 湯浅 勝則
電 話 番 号 0985-47-2010

令和6年3月29日付で交付決定のありました地域コミュニティ活動交付金については、決算において 903,745円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますので届け出ます。

添 付 書 類

令和6年度収支決算書

令和 7年 3月25日

令6年度 大塚台地域まちづくり推進委員会への意見書 [事業実施報告]

大塚台地域自治区地域協議会
会長 湯浅 和憲

令和6年度の大塚台地域自治区の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算(見込)については、第4回大塚台地域自治区地域協議会定例会(令和7年3月11日に開催)において協議した結果、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていることから賛成多数で承認されました。

記

1. 総括

地域コミュニティ活動交付金を活用し、大塚台地域の課題解決に向けてさまざまな事業に取り組んできました。今後とも、部会員の意識向上と部会員の有機的な連携を図りながら、地域住民のニーズに即した事業の推進をお願いします。

2. 事業の推進体制

地域自治区制度に代わり大塚台まちづくり推進委員会が中心となり、より多様な主体のまちづくりを進めながら、事業の実施につきましては、多くの住民が楽しくふれあいながら、安全に参加できるような事業をお願いします。

3. 各事業への意見(意見のある事業のみ記載)

特になし